

山形県版 家庭学習の手引き



山形県教育委員会

2026. 4月～ Ver. 1

目次

1 はじめに

「山形県版家庭学習の手引き」について

(1) 家庭学習の目的と意義

(2) 家庭学習に関する本県の現状

2 効果的、効率的な家庭学習のために

(1) 家庭学習への意欲の向上

(2) 授業と家庭学習とのつながり

(3) 生活習慣と家庭学習時間

(4) 家庭学習を進める際のポイント

(5) ICTの効果的な活用

3 教員、子ども、保護者の連携を深めるために

(1) 教員同士の共通理解・共通の指導

(2) 子どもとの共通理解

(3) 保護者との共通理解

1 はじめに

山形県版 家庭学習の手引き

家庭学習は学力定着だけでなく、主体的に学ぶ力を育てる重要な機会です。本手引きは、これまでの実践や調査結果に基づき、学校と家庭が連携して学習の「質」が高められるよう作成したところです。

家庭学習が果たす役割



学力の定着と深化
授業での学びを家庭で振り返ることで、知識を確実に定着させ、理解を深めます。



主体的に学ぶ力の育成
子どもたちが自分に合った学び方を身に付け、自ら学び続ける力を育てます。

充実した指導と活用のポイント



学習の「質」へのアプローチ

時間の確保だけでなく、「何を」「どのように」学ぶかという質の改善を重視します。



学校と家庭の共通理解

基本的な生活習慣や学習習慣について、家庭と情報を共有し、一貫した支援を行います。



デジタルデータとの連携

CBTの結果やAI分析を家庭と共有し、個々の実態に合わせた効果的な学習を促します。

(1) 家庭学習の目的と意義



指導のポイント

目的の理解が主体性を育みます



「なぜ必要なのか」を子ども自身が納得することが、意欲的な学習の第一歩です。

子どもの実態に合わせた説明



子どもの成長段階や状況に応じ、伝わる言葉を選んで説明する機会を持ちましょう。

家庭学習の主な目的



学習習慣と粘り強さの育成

毎日少しずつでも継続することで、自ら進んで学ぶ「当たり前」の習慣が身に付きます。



学習内容の確実な定着

学校での「わかった」を、家庭での反復練習により「自信」と「得意」に変えます。



夢や目標の実現に向けた力

上手な時間の使い方や課題解決力を養い、将来の夢を叶えるための基盤を作ります。

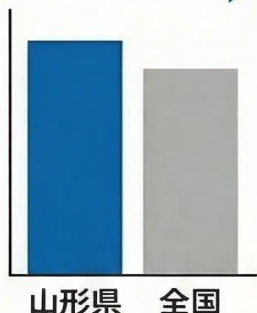
(2) 家庭学習に関する本県の現状



家庭学習時間
(1日1時間以上)
の現状

小学生

小学生は全国平均を
上回っています



家庭学習の
「指導改善」への
活用状況

指導改善への活用は
全国よりやや低い傾向です
家庭学習の課題をその後の指導
や学習改善に生かした割合が
全国を下回っています。

山形県  小学校

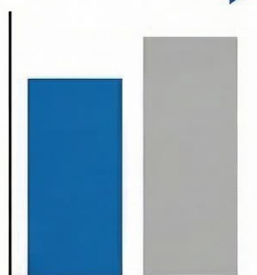


山形県  中学校



中学生

中学生は全国平均を
下回っています



質の向上と指導への
還元が今後の課題です
基礎の定着と発展的学習の両立
を目指した宿題の工夫が求めら
れています。

2 効果的、効率的な家庭学習のために

(1) 家庭学習への意欲の向上

自主性を育む 「3ステップ」のプロセス



ステップ1： 教師主導の「宿題①」

内容や量を教師が指示し、基礎的な学習習慣を定着させます。



ステップ2：自己選択 を取り入れる「宿題②」

子ども自身がメニューから内容や量を選択・決定し、提出します。



ステップ3： 自立した「自主的な取組み」

提出指示がなくても、予習や復習、興味のある探究学習を自ら行います。

意欲を引き出す 学習メニューの工夫



「わくわく」と「家族」を キーワードに

キャラクター作りや家族へのインタビューなど、楽しみながら取り組める工夫をします。



ICT（タブレット）を 活用した振り返り

板書を撮影して家庭で視写し、気づきをメモして自分だけの参考書を作ります。



発達段階に合わせた 多彩なメニュー

低学年は家族との音読、中学年
年は地域探検、高学年は新聞ス
クラブなど。

(2) 授業と家庭学習とのつながり

授業と家庭学習を切り離すのではなく、単元計画の中に位置づけてデザインすることが重要です。「復習・予習・活用」の3つの視点から目的を明確にし、ICTデータも活用しながら、子どもたちが学びの価値を実感できるサイクルを作ります。

授業と家庭学習を 連動させるポイント

単元計画の中に 家庭学習をデザインします



家庭学習を授業の一部として位置づけ、量と質のバランスを整えることが大切です。

データの活用で 個別のつまずきに対応します



CBTデータ/
AI分析



CBTデータやAI分析を活用し、苦手分野を家庭学習で重点的に取り上げます。

教師と児童生徒で 目的を共有します



授業の終わりに「今日の家学習の目的」を具体的に伝えることが重要です。

学びを深める「3つの視点」



【復習】学んだことを
確かな力にします



授業内容の定着を図り、「分かったつもり」を防ぐための
解き直しなどを行います。

具体的な指導の一例



教科問題の
解き直し



文章や実験結果の
要約 (図表の活用)



【予習】明日の授業の
見通しを立てます



次の学習への問いを持つこ
とで、授業での思考や対話の
時間を十分に確保します。

具体的な指導の一例



教科書を読み
「分からないこと」を整理



結果の予想



【活用】学びを日常生活に
生かします



広告の分析や身近な現象の観察を通じ、
学習の価値や意欲を育みます。

具体的な指導の一例



生活の中の
数量の説明



理料的視点での
生活用品の解説

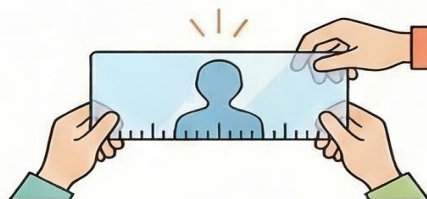
(3) 生活習慣と家庭学習時間

家庭学習の考え方と時間の目安



学習の目的は「習慣づくり」です

課題を終えることだけでなく、毎日の生活に学習を定着させましょう。



目安は「自分を見つめる物差し」です

他者と比較せず、自分の生活を調整するための基準として活用します。



学習時間の目安は一例です



※ 学習時間の目安はあくまでも一例であり、子どもの実態に合わせる必要があります。

学年ごとの学習時間の計算目安

小学生

$$\text{学年} \times 15\text{分} = \text{学習時間}$$

中学生

$$\text{学年} + 1\text{時間} = \text{学習時間}$$

一人ひとりに最適な学習計画



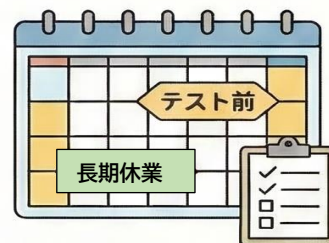
個別の実態に合わせて時間を調整します

理解度や苦手分野、体力、集中力に合わせて必要な時間を考えましょう。



生活時間を振り返りましょう

どこに学習を組み込めるか確認し、無理がある場合は内容を調整します。



計画表を効果的に活用しましょう

定期テスト前や長期休業、生活リズムを見直す時期に有効です。

(4) 家庭学習を進める際のポイント

家庭学習の目的は『宿題を終わらせること』ではなく、
『自分で学ぶ力を育てること』にあります。
解きっぱなしにせず、間違いの原因を突き止めて『分かるまでやり直す』
プロセスと、毎日無理なく続けるための工夫が重要です。

効果を高める学習のステップ



①内容確認

学習を定着させる
5つの基本手順



②弱点発見



③解き直し

「分かるまでやり直す」
ことが最も重要です
単に問題を解くだけで終わりに
せず、自力で解けるまで
繰り返す意識をもちます。



④理由確認

できた問題も
「根拠」を
説明します



正解した問題について
も、なぜその答えになる
のか理由を説明でき
る状態を目指します。



⑤類似問題で
の再確認

継続と定着のための工夫

答え合わせの「後」を
大切にします



間違い直しを必ず行い、なぜ間違え
たのかを言葉にして書き留めること
が力になります。

毎日同じ時間帯に
短時間でも取り組みます



学習の記録をつけ、積み重ねを可視
化することで継続の意欲を高めます。

地道な努力をきちんと
認めてあげてください



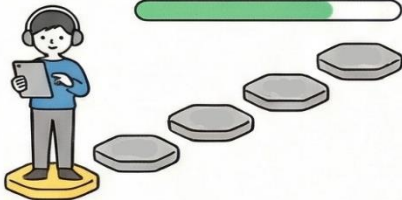
継続して取り組んでいる姿勢を大人
が認め、励ますことが子どもの自信に
つながります。

(5) ICTの効果的な活用

ICTを活用することで、児童生徒は自分のペースで学習を進め、即時フィードバックを得ることが可能になります。これにより、家庭学習が「やらされるもの」から「主体的な学び」へと変わり、学習定着度の向上や表現力の育成が期待できます。

ICTを活用する 大きなメリット

個別最適な学びが
実現できます。



自分に必要な学習を、自分のペース
で適切に進めることができます。

主体的に学習に
取り組みます。



学びたいことを学びたい方法で学
ぶことで、意欲が向上します。

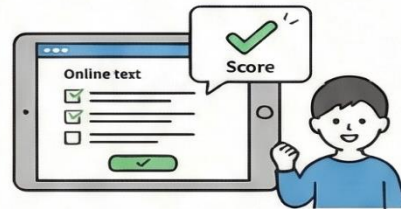
情報活用能力が育まれます。



様々なデジタルツールを扱う経験を通
じて、スキルが自然と身につきます。

家庭学習での 具体的な活用シーン

AIドリルや
CBTシステムによる習得



自動採点と即時フィードバックによ
り、弱点をその場で補強できます。

デジタル百科事典や
動画での調査



視覚的な情報やバーチャル体験によ
り、深い理解が可能になります。

プレゼンソフト等による表現



学習成果を資料や動画でまとめるこ
とで、表現力が高まります。

3 教員、子ども、保護者の連携を深めるために

家庭学習の効果を最大限に高めるための共通理解と連携



学校内の体制整備と子どもへの働きかけ

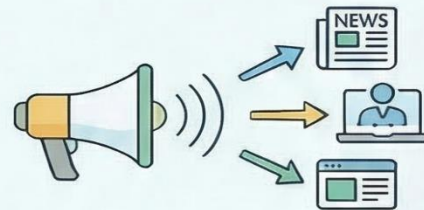


組織的な推進体制を整え、定期的に振り返ります
担当者を明確にし、学習内容が過度な負担
になっていないか全教員で確認します。



子どもに「なぜ」「どう」学ぶかを指導します
家庭学習の目的や具体的な取り組み方
について、年度初めにガイダンスを行います。

保護者との連携と客観的データの活用



多様な媒体で子どもの頑張りを発信します
保護者会や学校だよりを通じ、家庭での協
力依頼や子どもの成長を積極的に伝えます。



CBTデータやAI分析を家庭と共有します
個人の成績データやつまづきやすい分野
を共有し、保護者の意識向上を図ります。